

楽しかった「森のようちえん」

工業高専生 今田 大聖 18 (千葉県木更津市)

僕は、幼い頃、愛知県に住んでいた。最初に入園した保育園では、脱走を繰り返していたそうだ。

やがて、親の決断で、「森のようちえん」と呼ばれるところに通うことになった。「森のようちえん」は、自然の中で幼児教育をする、少し変わった幼稚園だった。遊具はほとんどないが、豊かな自然に囲まれた広大な遊び場には、小さな川が流れていた。川のへりを掘ると土の中から粘土が出てくる。鳴き声のする方をさらに掘ると、オケラを見つけることができた。みんなで集めたどんぐりで、どんぐりケーキを作った。これは、おいしいものではなかったが、今でも記憶に残っている。毎日が楽しくて、あっという間に時間は過ぎていった。僕のかげがえのない思い出だ。

最近の幼稚園遊びでは、英語や漢字、九九の勉強の有無などが親の関心を引いているようだ。僕のように豊かな自然の中で、子供が育つことの意義にも、もっと目を向けてほしいと思う。